

先進的なβ’モデルに欠かせないLBO環境を実現 高度な自治体ネットワークを支えるA10 Thunder CFW

顧客名：

世田谷区

業種：

自治体

A10のソリューション：

A10 Thunder CFW による Microsoft 365 や Web 会議へのローカルブレイクアウト及びインターネット利用時のプロキシ

課題：

- 三層分離におけるβ’モデルの基盤整備を計画
- テレワークを含む職員の柔軟な働き方を可能にする環境整備が急務
- SSL 可視化を含め 1 つの筐体で柔軟に機能拡張できる環境づくり

導入効果：

- 世田谷区の DX 推進に不可欠なインフラ整備を実現
- 約 8,000 人の職員が業務で利用するネットワークの通信制御を円滑化
- 安定した運用を支える基盤



世田谷区 DX 推進担当者様

“ β’モデルに移行したことで、人件費の削減などさまざまな効果を得られていますが、重要な基盤の一翼を A10 Thunder CFW が担ってくれています。”

世田谷区 DX 推進担当者様

“ ネットワークにおける通信を血液とするなら、それを正しい方向にポンプアップする心臓部の役割を A10 Thunder CFW が果たしているといえるでしょう。”

世田谷区 DX 推進担当者様



東京都世田谷区では、コロナ禍におけるテレワークを含む働き方改革や、庁舎の建て替え・移転を機に、三層分離において従来のαモデルからβ’モデルへの移行を進めました。インターネットアクセスにおけるクラウドプロキシやテレワーク環境に必要な VPN 装置、Microsoft 365 などクラウドサービスへの快適な利用を可能にするローカルブレイクアウトの実現に向けて、A10 ネットワークス（以下、A10）が提供する「A10 Thunder® CFW」を採用しました。

課題：コロナ禍に端を発した業務環境の改善に向けて、β’モデルへの移行を検討

東京の西部に位置し、人口約 92 万人を擁する東京都世田谷区。閑静な住宅地に加え、砧公園や駒沢公園など緑豊かな公園が多く、三軒茶屋や下北沢といった個性あふれる商業エリアも魅力のひとつです。田園都市線や小田急線など複数の鉄道が区内を横断し、都心へのアクセスにも優れていることから、魅力的な基礎自治体として人気を博しています。

そんな世田谷区では、2031 年度までの 8 年間で期間とする世田谷区基本計画に基づき、DX 推進に取り組んでいます。特に DX に関しては、「あらゆる世代が安心して住み続けられる世田谷をともにつくること」を目的に、世田谷区 DX 推進方針を 2021 年に策定。「行政サービス」「参加と協働」「区役所」という 3 つの観点から世田谷区の再構築を目指す Re-Design を掲げ、さまざまな施策を展開しています。現在は、世田谷区 DX 推進方針 Ver.2 に沿った施策を進めており、なかでも区役所における Re-Design の一環として三層分離におけるβ’モデルへの移行に取り組んでいます。

そのきっかけとなったのは、コロナ禍に端を発した業務環境の課題でした。「当時はテレワーク環境が十分に整備されておらず、在宅勤務ではファイルサーバにアクセスできず、メールも利用できない状況でした。そこで、事業継続の観点からオンライン会議の環境整備や Microsoft 365 の機能を活用できるようテレワーク環境を推進し、場所を選ばない働き方が可能なインフラへの移行が求められました」と世田谷区の DX 推進担当者は当時を振り返ります。その実現に向けて、従来のαモデルからβ’モデルへの移行が進められました。

検討：外部接続点としてのクラウドアクセスプロキシ、高いコストパフォーマンスを誇る A10 Thunder CFW

テレワーク推進に向けた新たな働き方を支える基盤づくりにあたっては、セキュリティ強度を維持しながら、職員の生産性向上につながる環境整備が求められました。「大きな方針としては、基盤変更に向けてプロポーザル方式で事業者を選定し、あるべき姿を外部のコンサルタントの意見も踏まえながら、事業者とともに議論を重ね、実構築可能な環境を検討していった」と言います。

なかでも、庁内ネットワークと外部との接続点として機能するクラウドアクセスプロキシの機器については、議論を重ねる中で必要な要件を明確にしていきました。具体的には、IPsec-VPN を利用したテレワーク環境の整備に加え、Microsoft 365 などのクラウドサービスを快適に利用するためのローカルブレイクアウトの実現、SSL の可視化やテナント制御によるセキュリティ強化、さらに災害時にも複数経路を維持して事業継続を可能にする Global Server Load Balancing (GSLB) など念頭に置き、機器選定を進めていきました。

そこで個別に入札を実施した中で事業者側から提案されたのが、Microsoft 365 のローカルブレイクアウトに定評のある A10 Thunder CFW でした。1 つの筐体に多彩な機能が内包されているというコストパフォーマンスの高さはもちろん、堅牢性の高さをはじめとする他自治体での評判、事業者側としての構築実績などが評価され、β’モデルを支える次期情報化基盤の一部として、A10 Thunder CFW の導入が決定しました。

ソリューション：β’モデルを支えるネットワーク基盤に欠かせない A10 Thunder CFW

明示型 / 透過型プロキシとして動作し、ユーザートラフィックの制御と可視化を実現。クラウドアクセスプロキシとしてのセキュア Web ゲートウェイに加え、IPsec VPN や GSLB を可能にするアプリケーション配信など、1 つの筐体で多様な役割を果たします。さらに、URL フィルタリングや SSL/TLS 可視化機能により高度なセキュリティを実装。β’モデルにおけるインターネット接続のプロキシとして、自治体での導入実績も豊富です。

導入効果：通信という血液を正しい方向にポンプアップする心臓部の役割を果たす

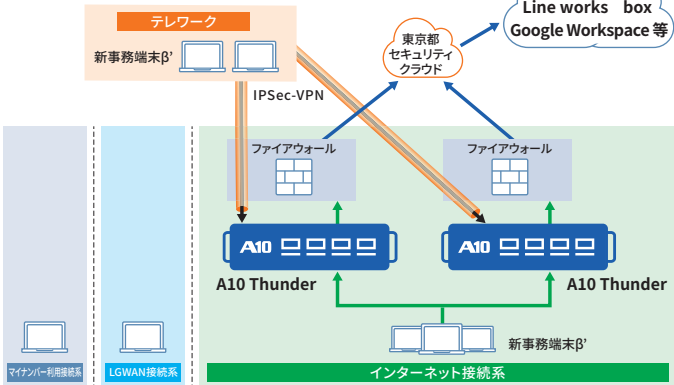
現在はβ’モデルへ移行しており、約 8,000 人の職員がインターネット接続系端末を使用しています。外部との接続点には冗長化された A10 Thunder CFW が設置されており、インターネット網を介して接続する Microsoft 365 へのローカルブレイクアウトをはじめ、庁内ポータルや東京都が構える自治体情報セキュリティクラウドへの振り分けを行うクラウドアクセスプロキシとして機能しています。また、テレワーク拠点から庁内ネットワークへアクセスするための IPsec VPN 装置としても活用されています。機能面では、SSL・TLS の可視化に向けた SSL インサイトや、各種クラウドサービス利用時のテナント制御、BCP 対策として経路の冗長化を図る GSLB 機能を活用しています。

現在、ローカルブレイクアウトによって直接インターネット網にアクセスしているのは、Microsoft 365 のほか、オンライン会議ソリューションや YouTube をはじめとする動画配信サービスなど、帯域を多く必要とするサービスが中心です。SaaS を中心とした業務環境を整備するためのβ’モデルであることから、今後はクラウドストレージの box や LINE WORKS、Google Workspace などのサービス実装も計画されています。これらは現時点ではセキュリティクラウド経由での接続となっていますが、状況に応じてローカルブレイクアウトへの移行も視野に入れています。

新たにβ’モデルへ移行したことで、Web サイトへアクセスするためにインターネット VDI を立ち上げるだけで数分を要していた環境からも脱却しました。必要な情報へ迅速にアクセスできるようになったことで、業務の効率化や作業時間の短縮など、職員の生産性向上に大きく貢献しています。「すぐに成果が得られるものではありませんが、区の運営という意味では、人件費の削減や本来取り組むべき業務に注力できるなど、さまざまな効果が得られています。全員が使いこなせているわけではありませんが、必要な基盤が整備できたことは大きな成果です。その一翼を A10 Thunder CFW が担ってくれています」と評価します。

テレワークはもちろん、庁内に張り巡らされた Wi-Fi を利用し、どこでも働けるモバイルワークの環境を整備したことで、人材獲得の観点でも効果が

世田谷区の導入イメージ図



があると力説します。「職業を選ぶ際には、給与や業務のやりがいに加えて、職場環境も非常に重要な要素のひとつです。民間と遜色ない環境で働けることは、今後の人材獲得においても一定の役割を果たすと考えています」今後も国のガイドラインと照らし合わせながら、さまざまな施策に取り組んでいくこととなりますが、活用の可能性はさらに広がっており、そのアイデアを実現するための基盤が整った意義は大きいと語ります。「ネットワークにおける通信を血液とするなら、それを正しい方向にポンプアップする心臓部の役割を A10 Thunder CFW が果たしているといえるでしょう」

今後の展開：SaaSをはじめサービスの移行過渡期で見極めながら最適な環境整備を進めたい

現在はβ’モデルへの移行過渡期にあり、同じ機能を持つ複数のサービスを課ごとに使い分けながら、ローカルブレイクアウトの環境も試行錯誤を重ねている段階です。「現状では、各課の事情に応じて SaaS を許可していますが、似たような機能を持つサービスが乱立している状況は認識しています。今後は、Microsoft 365 に機能を集約するのか、既存サービスを残すのか整理を進め、コスト面も踏まえながら、最適な環境づくりをさらに推進していきたい」と意欲を示します。また、VPN 環境の見直しや生成 AI の活用に向けた検証など、さまざまな試みが進められており、基盤側としては A10 Thunder CFW で処理可能なパフォーマンスも考慮しながら、最適な構成に向けた検討を進めていきたいと語ります。

A10 Thunder CFW については、個人アカウントを接続させないようにするテナント制御などの対策も進めています。「β’モデルに移行したことで、基本的には SaaS の利用が前提となりますが、ファイルアップロード機会も増えるはずで、情報漏えいリスクを最小限に抑えるためにも、アカウント制御をはじめとしたシャドー IT 対策に A10 Thunder CFW を活用していきたいです」と世田谷区の DX 推進担当者は語ります。また、テレワーク環境については、庁内の A10 Thunder CFW を経由せずにゼロトラストアクセスが可能な A10 Cloud Access Controller の活用も検討していきたいと、今後について語っていただきました。

■ A10 Networks / A10 ネットワークス株式会社について

A10 Networks は、オンプレミス、ハイブリッドクラウド、エッジクラウド環境における、セキュリティ、インフラストラクチャの課題を解決するソリューションを提供しています。大手グローバル企業や通信、クラウド、Web サービス事業者まで 7000 社以上のお客様に導入いただいており、ビジネスに不可欠なアプリケーションやネットワークの安全性、可用性、効率性を高めています。A10 ネットワークスは 2004 年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼに本社を置き、世界中のお客様にサービスを提供しています。

A10 ネットワークス株式会社は A10 Networks の日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークングソリューションをご提供することを使命としています。詳しくはホームページをご覧ください。

- URL : <https://www.a10networks.co.jp/>
- X (旧 Twitter) : <https://twitter.com/a10networksjp>
- Facebook : <https://www.facebook.com/A10networksjapan>

記載された内容は 2025 年 11 月時点の情報です。



世田谷区
SETAGAYA CITY

Learn More

About A10 Networks

お問い合わせ

[A10networks.co.jp/contact](https://a10networks.co.jp/contact)

A10 ネットワークス株式会社

www.a10networks.co.jp

©2025 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 ロゴ、A10 Networks は米国およびその他の各国における A10 Networks, Inc. の商標または登録商標です。その他上記の全ての商品およびサービスの名称はそれら各社の商標です。A10 Networks は本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networks は、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。商標について詳しくはホームページをご覧ください。 www.a10networks.com/a10-trademarks Part Number: A10-CS-Setagaya City-01 Nov 2025



世田谷区に **も**、ふるさと納税

例えば **医療的ケア児とその家族の笑顔**のために



医療的ケア児とその家族の笑顔を増やしたい

日々様々な困難を抱えながら生活する医療的ケア児とそのきょうだい、家族が楽しく、安全に暮らしていくための支援に活用します。

例えば **犯罪被害**にあわれた方達の **支援**のために



犯罪被害を受けた方やそのご家族・ご遺族のために

犯罪被害者等支援を持続的に行うため、「世田谷区犯罪被害者等支援等基金」を創設しました。いただいた寄附金は犯罪被害を受けた方やそのご家族・ご遺族への経済的支援や二次被害防止のための啓発事業等に活用します。

等々力溪谷プロジェクト
～みんなで育む緑と水～



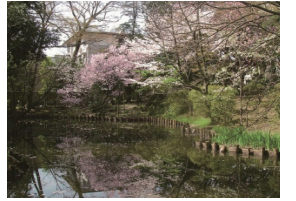
等々力溪谷公園の通行止め解除に向けた作業や、健全な樹林地の保全・育成等に活用します。

気候危機を食い止め、持続可能な
環境を次世代に引き継ぐ



一人ひとりが環境への影響を考えて行動を変えていく取組みや再生可能エネルギーの導入を後押しする取組みなどにより、地球温暖化対策を進めます。

花とみどりが笑顔をつなぐ



公園の整備・魅力向上や、みどりの普及啓発、特別保護区の保全など、大切なみどりを守り、ふれあえる場所を増やします。

児童養護施設等を巣立つ
若者などの自立のために



これまでは、児童養護施設等を巣立つ若者への給付型奨学金、資格等取得支援、家賃支援に活用してきましたが、新たに、過去に虐待等を受け、親族からのサポートがなく、困難な状況にある若者にも対象を広げるとともに、医療費支援にも活用します。

せたがや
動物とともにいきるまちプロジェクト



動物の飼い方等に関する講習会・学習会開催費用、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術への補助などを通じて、地域と動物との共生を目指します。

いつまでも安心して暮らし続けられる



福祉施設や市民活動団体への支援など、“住みなれた地域ですべての人がともに支えあう”地域をつくります。

子ども・若者が、笑顔で、
自分らしく、チャレンジできる



子ども・若者の多様な活動や、子育て家庭を支える取組み、子どもを育む地域活動の支援等に活用します。

せたがやの教育の充実のために



小・中学校の建替え、子どもの海外教育交流やICTを活用した学びの充実に取り組みます。

みんながスポーツを楽しめる



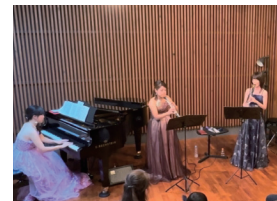
パラスポーツの推進をはじめ、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツを楽しめる環境をつくります。

多文化共生のまち
“せたがや”を目指して



地域の国際交流団体等への支援など、区に住む全ての人たちがお互いを尊重し合える多文化共生の意識づくり・国際交流等の推進に活用します。

文化・芸術が華のように咲き誇る



地域の文化活動への支援や文化施設の改修・改築等に活用します。

本庁舎等整備プロジェクト



築後60年以上が経過した庁舎等を改築し、区民の生活の支えや交流の拠点となる場所づくりのために活用します。

せたがやクラファン！チャレンジ
(市民活動支援事業)



市民活動団体等が行う地域課題などの解決を目的とした事業に活用します。

災害に強いまちづくりに



近年、激甚化・頻発化する自然災害の発生に備え、発災後の応急対策や復旧のためだけでなく、備蓄などの災害への備えや体制整備にも活用します。

寄付の使いみちと実績について

詳しくは
「世田谷区 ふるさと納税特設サイト」
をご覧ください。 ▶▶▶



<https://furusato-setagaya.com/usage/index.php>

お問い合わせ：世田谷区ふるさと納税サポート室
電話番号：050-3628-2356